

夏の星座が夜空に輝く季節となりました。学校・園では、七夕飾りも見られ、本格的な夏の到来を感じさせます。いのちのたび博物館では、夏の特別展「昆虫博2022」が間もなく開催されます。また、歴史ポケットミュージアムでは、「古文書」や「襤褸」をテーマにした企画展も始まっています。是非、みなさんでお越しください。

開館20周年記念 夏の特別展「昆虫博 2022」

「世界の昆虫大集合！」



【開催期間】令和4年7月16日(土)～9月4日(日)

生物の中で最も種類が多い、昆虫の多様な世界をご紹介します。標本や生きた昆虫、化石、巨大模型などが展示され、昆虫の形態や生態を様々な視点から楽しんでいただける「昆虫博2022」です。

プラチナコガネ
 プラチナのような輝きをもつ美しい甲虫



タマオシコガネ
 糞を運ぶフンコロガシ



ヘラクレスオオカブト
 世界最大のカブトムシ



めずらしい昆虫がいっぱいいるよ！



キベレタツパナルリジミ
 小さいがとても美しい蝶



■常設展のみ(7月・8月は市民無料)

	一般	団体
大人	600円	480円
高・大生	360円	280円
小・中生	240円	190円

■特別展のみ

	一般	団体
大人	800円	640円
高・大生	500円	400円
小・中生	400円	320円

■セット券(常設展+特別展)

	一般	団体
大人	1200円	1080円
高・大生	800円	680円
小・中生	600円	510円

※ 団体は30名以上のお一人様料金です。※一般セット券は前売券があります。

企画展「古文書にみる戦国の北九州」

会期 令和4年6月25日～9月4日

※ 常設展入場券で観覧可

古文書や関連する史跡を通して、戦国時代を巧みに立ち回っていた地域の武士や寺社から見た戦国の北九州をご紹介します。

企画展「堀切辰一コレクション

襤褸～背守り

会期 令和4年6月25日～9月4日

※ 常設展入場券で観覧可

庶民生活史研究家の堀切辰一氏が収集した古布コレクション「襤褸」を紹介します。

ミュージアムのタネ

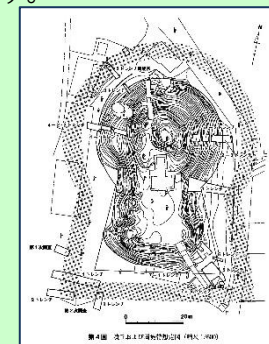


北九州市でも古墳が見られるよ！

北九州市にもある前方後円墳

中学社会歴史的分野の教科書では、3世紀後半ごろから前方後円墳と呼ばれる古墳がつくられるようになり、巨大な前方後円墳は大和(現在の奈良県)とその周辺に集中していた、と習ったと思います。

もちろん、私たちの住む北九州市にも前方後円墳はつられています。北九州市内には現在、前方後円墳が7基確認されており、比較的簡単にみることができ古墳に小倉南区中曽根周辺にある曾根古墳群があります。曾根古墳群は福岡県指定史跡で、5基の前方後円墳と4基の円墳によって構成されています。なかでも比較的見学のしやすい荒神森古墳は現在も小倉南区中曽根三丁目1番にあり、当時の様子とは若干変わっているものの、現地での大きさを実感することができます。古墳の全長は約70mで、古墳のまわりには堀がめぐっていたことが発掘調査によってわかりました。



荒神森古墳 墳丘測量図

古墳の上からは粘土で作られた円筒埴輪や家形埴輪などが出土しています。また、相撲をした力士とみられる人物埴輪も出土しました。相撲は古墳時代頃から始まっており、勝ち負けによって吉凶を占ったと考えられています。荒神森古墳はその形や出土遺物などから、6世紀後半につくられたとみられますが、遺体が納められた埋葬施設がどのような形状なのかはわかっていません。

興味深いのは古墳の立地です。今では海から1.7kmほど離れた場所がありますが、この辺りは江戸時代に新田開発がおこなわれて陸地になったところであり、古墳がつくられた当初は、海のすぐ脇だったとみられています。つまり、荒神森古墳は他の2基の古墳と並んで、東側を海に向けてつくられていたのです。海の向こうは、瀬戸内海であり、東に進むと当時の政治の中心地である大和に通じる海域です。おそらく荒神森古墳は大和と九州を行き来する船に対して、九州の豪族たちの存在を示す働きをしていたと考えられます。



荒神森古墳 埴輪

北九州市立埋蔵文化財センターで展示



荒神森古墳 人物埴輪(力士)

歴史課 学芸員 宮元香織